

The Oracle logo is positioned in the top left corner. The background features a series of overlapping, curved bands in shades of red and black, creating a dynamic, flowing effect that curves from the top right towards the bottom left.

ORACLE®

第27期 株主通信

2011年6月1日から2012年5月31日まで

株主通信 vol.23

Hardware and Software, Engineered to Work Together

証券コード*4716

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに当社の2012年5月期（2011年6月1日から2012年5月31日まで）のご報告をさせていただきます。

当期の経営概況

売上高

当期における日本国内の経済環境は、円高、欧州の政府債務危機、タイの水害等の影響もあったものの、東日本大震災後のサプライチェーンの立て直し等により企業活動に持ち直しの動きが見られ、IT投資も回復してまいりました。

売上高は、142,919百万円となり、前期比7.7%増の過去最高となりました。

ソフトウェア・ライセンス

① データベース&ミドルウェア データベース管理ソフトウェアおよびミドルウェアの新規ライセンスを販売しております。データベース統合、経営情報基盤の刷新、災害対策やBCP(事業継続基盤)構築等の案件を確保し、また、クラウド環境構築やExadata等のエンジニアド・システムの提案を積極的に推進し、主力のデータベース管理ソフトウェアやExadata用ソフトウェア、アプリケーションサーバーを中心としたミドルウェア製品等が堅調に推移いたしました。

② アプリケーションズ ERP等の業務アプリケーションの新規ライセンスを販売しております。経済環境やIFRS(国際財務報告基準)の強制適用時期の動向等を踏まえ、投資に慎重なお客様が見られる一方、企業活動のグローバル化等に対応したIT投資を積極的に行うお客様もありました。

アップデート&プロダクト・サポート

ソフトウェア・ライセンスを利用されているお客様に更新版等のアップデートや技術サポートを提供しております。お客様のIT環境を支え、維持管理コストを削減し、企業価値向上につながる「My Oracle Support」のサービス内容の訴求やパートナー様企業との協業推進等により、新規にライセンスを購入されたお客様からの新規契約と既存のお客様からの契約更新を確保し、堅調に推移いたしました。

ハードウェア・システムズ

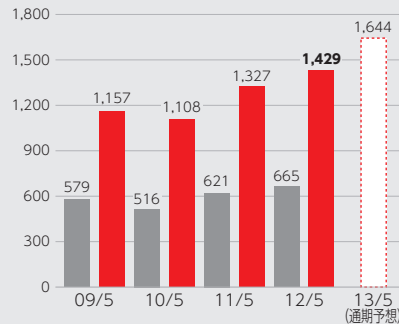
当部門は、サーバー、ストレージ、Exadata等エンジニアド・システムのハードウェアの販売およびそれらのオペレーティングシステム(OS)や関連ソフトウェアを提供する「ハードウェア・システムズ・プロダクト」、ハードウェア製品の技術サポート、修理、メンテナンスの提供およびOS等関連ソフトウェアの更新版等の提供を行う「ハードウェア・システムズ・サポート」から構成されます。

① ハードウェア・システムズ・プロダクト 従来から取り扱っていたExadataの販売増に加え、旧サン・マイクロシステムズ株式会社がパートナー様企業と締結していた販売代理店契約の当社への移管および変更手続きが前年度中に完了したことに伴い、旧サンサーバーやストレージ製品の販売が増加いたしました。

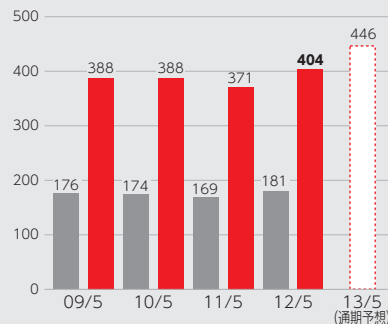
② ハードウェア・システムズ・サポート 新たに販売されたハードウェア製品に対するサポート装着率は増加しておりますが、期初のサポート対象期間終了(EOSL)製品の増加により減収となりました。

決算ハイライト

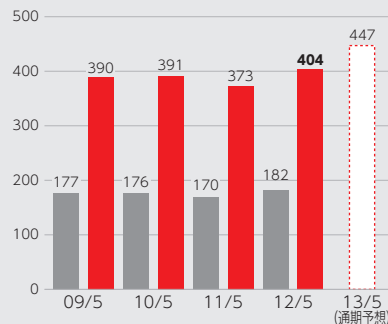
売上高 (億円)



営業利益 (億円)

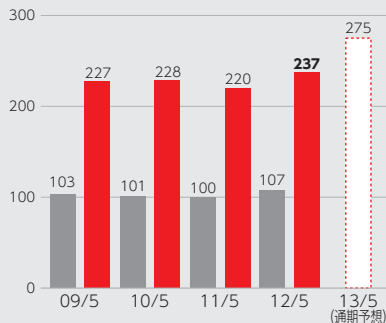


経常利益 (億円)

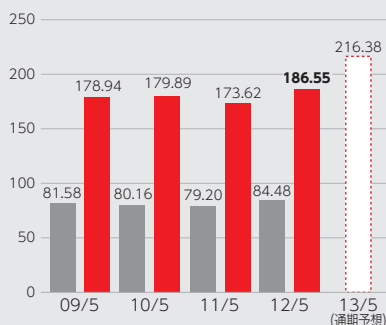


■ 中間期 ■ 通期

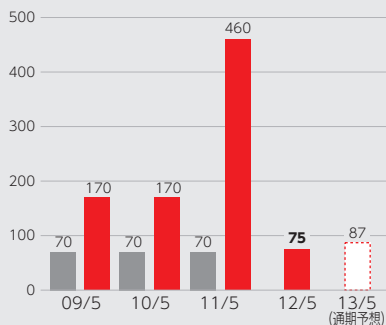
当期純利益 (億円)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり配当額 (円)



サービス

① **クラウドサービス*** 予防保守サービスやクラウド型サービス等の高付加価値サービスを提供しております。付加価値型サービスのAdvanced Customer Support Servicesを中心に堅調に推移いたしました。

② **エデュケーションサービス** 技術者や利用者向けの研修事業や技術資格の認定事業を提供しております。期初は新卒向けの研修を中心に好調でしたが、景況感の不透明さが強まってきた影響を受けました。

③ **コンサルティングサービス** 当社製品の導入支援を行っております。データベース&ミドルウェアのコンサルティング案件は堅調に推移し、また、アプリケーションズのコンサルティング案件は回復の兆しが見られました。

* クラウドサービス：従来のアドバンスト・サポートから名称を変更いたしました。

営業利益

営業利益は、ソフトウェア関連にかかる増収に伴うロイヤリティ増加、ハードウェア・システムズ部門の仕入原価増加、営業強化に伴う人件費の増加等がありましたが、40,432百万円（前期比8.7%増）となりました。

経常利益

経常利益は、受取利息等を営業外収益に計上した結果、40,480百万円（前期比8.5%増）となりました。

当期純利益

当期純利益は、特別利益として新株予約権戻入益等、特別損失として事業構造改善費用等を計上した結果、23,709百万円（前期比7.4%増）となりました。

次期の見通し

次期の見通しにつきましては、売上高164,400百万円（前期比15.0%増）、営業利益44,600百万円（前期比10.3%増）、経常利益44,700百万円（前期比10.4%増）、当期純利益27,500百万円（前期比16.0%増）、1株当たり当期純利益216円38銭を見込んでおります。

配当金について

期末配当金につきましては、1株当たり75円とさせていただきます。

また、次期の配当金につきましては、現在の業績予想の達成を前提に、配当性向としておおむね40%を目指すという当社の配当方針に基づき、期末配当金として1株当たり87円（前期比12円増）とさせていただきます。

*

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS



日本オラクル
4代目社員犬
「キャンディ」
(Candy)
2歳

● 2011年6月

「中期経営計画」を発表

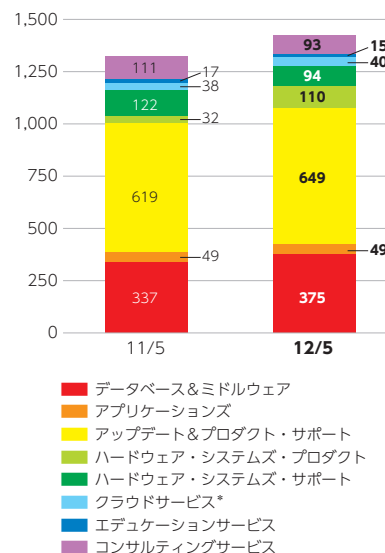
2つのイニシアチブである成長戦略「Growth Initiatives」と経営基盤整備の「Foundation」に取り組み、営業体制の強化、パートナー様との協業強化、新製品の積極的な投入等を行い、お客様との関係をより深め、さらなる成長を実現すべく様々な施策をすすめてまいりました。

● 2012年4月

「Oracle OpenWorld Tokyo 2012」と「JavaOne Tokyo 2012」開催!

「Engineered for Innovation (エンジニアド・フォー・イノベーション) – 技術の融合が世界を変える」をテーマに開催した3日間、会期を通じて約1万人の方々が参加しました。ラリー・エリソンをはじめとするオラクル・グループの経営陣による基調講演に加え、170を超えるセッション、26社による展示ブース、51種類のデモンストレーションなどを通じて、オラクルの製品戦略、技術情報、導入事例等をお客様に直接お伝えし、今後のビジネスの拡大につなげる機会といたしました。

セグメント別 売上高の推移 (億円)



■ データベース&ミドルウェア
■ アプリケーションズ
■ アップデート&プロダクト・サポート
■ ハードウェア・システムズ・プロダクト
■ ハードウェア・システムズ・サポート
■ クラウドサービス*
■ エデュケーションサービス
■ コンサルティングサービス

■ 当期の部門別売上高

(金額は単位未満を切り捨て、構成比ならびに対前期比は単位未満を四捨五入で表示)

区分	金額	構成比	対前期比
データベース&ミドルウェア	37,551百万円	26.3%	11.4%
アプリケーションズ	4,900百万円	3.4%	△1.2%
ソフトウェア・ライセンス 小計	42,452百万円	29.7%	9.8%
アップデート&プロダクト・サポート	64,986百万円	45.5%	4.9%
ソフトウェア関連 計	107,439百万円	75.2%	6.8%
ハードウェア・システムズ・プロダクト	11,053百万円	7.7%	243.5%
ハードウェア・システムズ・サポート	9,430百万円	6.6%	△22.8%
ハードウェア・システムズ 計	20,484百万円	14.3%	32.7%
クラウドサービス*	4,073百万円	2.8%	6.1%
エデュケーションサービス	1,562百万円	1.1%	△9.6%
コンサルティングサービス	9,359百万円	6.5%	△15.9%
サービス関連 計	14,995百万円	10.5%	△10.2%
合計	142,919百万円	100.0%	7.7%

* クラウドサービス：従来のアドバンスト・サポートから名称を変更いたしました。

貸借対照表

(百万円/百万円未満切り捨て)

科目	前期末 (11/5)	当期末 (12/5)
資産の部		
流動資産	88,584	68,375
固定資産	44,398	43,117
有形固定資産	42,615	41,340
無形固定資産	35	20
投資その他の資産	1,747	1,757
資産合計	132,982	111,493
負債の部		
流動負債	46,715	50,963
固定負債	91	91
負債合計	46,806	51,054
純資産の部		
株主資本	85,383	59,526
資本金	22,301	22,301
資本剰余金	33,739	5,652
利益剰余金	29,365	31,595
自己株式	△22	△23
評価・換算差額等	△19	△22
新株予約権	812	934
純資産合計	86,176	60,438
負債・純資産合計	132,982	111,493

損益計算書

(百万円/百万円未満切り捨て)

科目	前期 (10/6~11/5)	当期 (11/6~12/5)
売上高	132,724	142,919
売上原価	67,167	71,523
売上総利益	65,556	71,395
販売費及び一般管理費	28,365	30,963
営業利益	37,191	40,432
営業外収益	163	102
営業外費用	37	54
経常利益	37,316	40,480
特別利益	127	51
特別損失	132	19
税引前当期純利益	37,311	40,512
法人税等	15,245	16,803
当期純利益	22,065	23,709

キャッシュ・フロー計算書

(百万円/百万円未満切り捨て)

科目	前期 (10/6~11/5)	当期 (11/6~12/5)
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,651	33,364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,587	24,822
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,584	△49,527
現金及び現金同等物の増加額	△8,520	8,659
現金及び現金同等物の期首残高	23,354	14,834
現金及び現金同等物の期末残高	14,834	23,493

オラクルのビジネスが広がっていきます！

日本オラクルの製品群の拡大

日本オラクルは、企業活動の基盤となる「データベース管理システム」のソフトウェア販売を中心に創業しました。現在では、「アプリケーション」や「ミドルウェア」等のソフトウェア製品に加え、2010年6月、ハードウェアメーカーである旧サン・マイクロシステムズを経営統合したことに伴い、ハードウェア・システムズ部門を新設しました。「サーバー」や「ストレージ」等のハードウェアをラインナップに拡充し、ソフトウェア、ハードウェア、サービスの3本柱での営業活動は今年で3年目を迎えました。

そして、オラクルが注力しているのが、ハードウェアとソフトウェアを互いがうまく機能するように組み合わせて提供することで最高のITシステムを実現する、Engineered Systems(エンジニアド・システム)です。

あらかじめ最適に設計・構築したハードウェアとソフトウェアの組み合わせ

— Engineered Systems(エンジニアド・システム) —

クラウドやビッグデータの基盤として最適なエンジニアド・システム

互いによく機能し合うソフトウェアとハードウェアを自社で手掛け、組み合わせて提供する、これをエンタープライズITの世界で最初に適用したのが、オラクルの「Engineered Systems(エンジニアド・システム)」です。すでに国内外の様々なお客様の情報システムの基盤として採用され、また、クラウドやビッグデータ処理の基盤としても使われています。

ソフトウェアの提供を行ってきたオラクルだからこそ生まれたハードウェアが、「Oracle Exadata Database Machine(オラクル・エクサデータ・データベース・マシン)」です。

オラクル・コーポレーションの創業者・現CEOのラリー・

製品ラインナップ



Oracle
Exadata
Database
Machine



Oracle
Exalogic
Elastic
Cloud



Oracle
Exalytics
In-Memory
Machine



SPARC
SuperCluster
T4-4



Oracle
Database
Appliance



Oracle Big
Data
Appliance

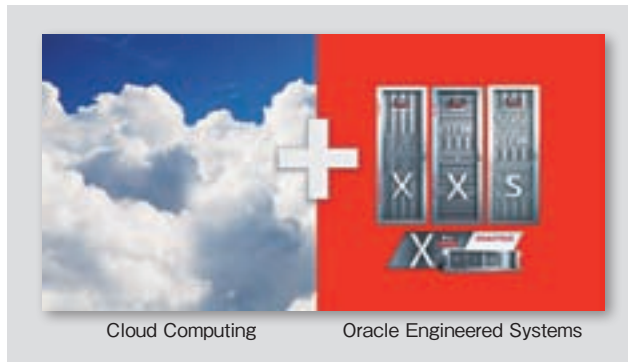
エリソンは、「データ圧縮性能を10倍にすることで転送量を減らし、また従来より10倍高速なデータ転送速度を確保することで、 $10 \times 10 = 100$ 倍のパフォーマンスを得た。これはすべて、新たなアーキテクチャによって可能になったことだ。さらに、データ保存には1ラック当たり4TBという大容量のDRAMを使い、すべてをインメモリで処理できるようにすることで高速化を図った」と語っています。

エンジニアド・システムの特徴の1つは、既存のシステムをそのままエンジニアド・システム上に載せ替えるだけで、大幅な性能向上を達成できる点にあります。

エンジニアド・システムには、クリティカルな単一障害点がなく、真の意味での高性能と高信頼性を実現しています。最善の結果を得るためには、もはやソフトウェアとハードウェアを別々に作っては追いつかないのです。

この「Exadata」のほかにも、Javaアプリケーション、Oracle Applications、その他のあらゆるエンタープライズ・アプリケーションに卓越したパフォーマンスを提供し、クラウドを統合する基盤として最適な「Oracle Exalogic Elastic Cloud」、新しいSPARC T4プロセッサの演算能力、Oracle Solaris 11のパフォーマンスとスケーラビリティ、Oracle Exadataストレージの最適なデータベース・パフォーマンス、そしてOracle Exalogic Elastic Cloudの高速ミドルウェア処理を組み合わせた、初めての汎用エンジニアド・システム「SPARC SuperCluster T4-4」、インメモリ型のソフトウェアおよびハードウェアと、高度なビジュアル化によって最適化されたビジネス・インテリジェンス・プラットフォームを実現した業界初のエンジニアド・システム「Oracle Exalytics In-Memory Machine」、非構造化データの取得および編成と、Oracle Database 11gへのロードに最適化されたエンジニアド・システム「Oracle Big Data Appliance」、Oracle Database Enterprise Editionの迅速な導入・構築に最適化した「Oracle Database Appliance」をエンジニアド・システムとして提供しています。

クラウドとシステムの融合



日本オラクルが積極的に展開している「エンジニアド・システム」について

エンジニアド・システムはあらかじめ最適に設計・構築したハードウェアとソフトウェアをオラクルが一貫して提供することで、ビジネスの機会が広がります。

エンジニアド・システムはサーバーやストレージなどのハードウェア、その上で稼働する「Oracle Database 11g」「Exadata Storage Server Software」やオプション等各種ソフトウェアを組み合わせて提供します。

さらに、ハードウェアの保守を行うサポートサービス、ソフトウェアのアップデートやサポートサービス、お客様がエンジニアド・システムを運用していくための導入・運用支援を行うアドバンスト・カスタマー・サポート・サービスやコンサルティングサービスなども提供することで、オラクルの3本柱であるハードウェア、ソフトウェア、サービスすべてのセグメントへの売上貢献を見込むことができます。

今後もオラクルの「エンジニアド・システム」にご期待ください！

会社概要

商号	日本オラクル株式会社
所在地	東京都港区北青山二丁目5番8号 オラクル青山センター
設立	1985年10月15日
資本金	223億01百万円
従業員数	2,586名
事業内容	ソフトウェア・ハードウェアの販売及び当該製品の利用を支援する各種サービスの提供

取締役 (2012年8月24日現在)

代表執行役 社長	遠藤 隆雄
執行役 副社長	野坂 茂
(社外)	デレク・エイチ・ウイリアムズ
(社外)	ジョン・エル・ホール
(社外)	エリック・アール・ポール
(社外)	グレゴリー・アール・デイヴィス
(社外)	大岸 聡
(社外)	村山 周平

株式の状況

発行可能株式総数	511,584,909株
発行済株式総数	127,097,471株
株主数	42,290名

所有者別状況

金融機関	5,853千株 (4.6%)
個人・その他	14,765千株 (11.6%)
外国法人等	104,853千株 (82.5%)
金融商品取引業者	789千株 (0.6%)
その他の法人	835千株 (0.7%)

*個人・その他には自己株式を含みます。*単位未満を四捨五入して計算しています。

IRカレンダー



日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山二丁目5番8号オラクル青山センター
インベスター・リレーションズ部
<http://www.oracle.com/jp/corporate/investor-relations/index.html>

株主メモ

事業年度	6月1日から翌年5月31日まで
基準日	定時株主総会 5月31日 期末配当 5月31日 *その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
定時株主総会	毎年8月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により、当社のホームページに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 除斥期間について
当社は定款により、配当金のお支払期限を支払開始から3年としており、支払開始から3年以上経過した配当金については除斥期間を経過したものととして、ご請求いただいてもお支払いすることができません。配当金はお支払開始後お早めにお受け取りください。それぞれの配当金の支払期限は、株主様にお届けする「配当金領収証」の裏面に記載しております。
- 除斥期間経過前の未受領の配当金は、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

本株主通信に含まれている業績予想等、歴史的事実以外の記述については、資料の発表日において入手可能な情報から判断された一定の前提に基づき、日本オラクル株式会社が策定したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。